

前橋版 CCRC 構想推進協議会 第 1 回会議

- 日時：平成 28 年 8 月 30 日 10:00~12:00
- 場所：中央公民館 505 学習室
- 資料
 - ・議事次第
 - ・前橋版 CCRC 構想推進協議会委員名簿
 - ・資料 1：【組織体制の全体像】前橋版 CCRC 構想の推進
 - ・資料 2：前橋版 CCRC 構想推進協議会設置要綱
 - ・資料 3：前橋版 CCRC 構想策定の背景
 - ・資料 4：前橋版 CCRC 構想策定にあたっての論点
 - ・資料 5：日赤跡地 CCRC 事業スケジュール
 - ・資料 6：CCRC スケジュール
 - ・参考資料 1：前橋版 CCRC の展開イメージ
 - ・参考資料 2：CCRC の参考事例
- 参加者

氏名	所属		
	団体名	役職	
平方 宏	前橋商工会議所	安心・安全なまちづくり委員会委員長	座長
小中 俊太郎	前橋市医師会	理事	
関根 兼久	観光コンベンション協会	コンベンション誘致課参事兼課長	
宮崎 均	前橋工科大学	副学長	
平形 和久	群馬医療福祉大学	IR 室長	
呉 宣児	共愛学園前橋国際大学	松本学 学長補佐 代理	
南 繁芳	群馬銀行	常務取締役兼本店営業部長	
小淵 紀久男	上毛新聞社	編集局報道部長	
北川 公啓	社会福祉協議会	地域福祉課長	
須田 敏裕	地域づくり協議会	中川地区地域づくり協議会 世代間交流部会長	
青木 正	地元自治会	中川地区自治会連合会長	欠席
高橋 功	日赤群馬県支部	事務局次長	
関根 晃	前橋赤十字病院	事務部長	
平井 敦子	群馬県健康福祉課	地域福祉推進室長	

<事務局>

前橋市副市長 倉嶋敬明

前橋市役所 政策部 政策推進課

1. 開会

2. 副市長あいさつ

(倉嶋副市長) 市としても、前橋版 CCRC は前進させたい政策である。人口減少・高齢化を背景として、前橋市も地方創生のための事業が求められている。その中で、前橋版 CCRC は第一の政策になると考えている。日赤跡地の活用という点だけでなく、前橋市の人口減少、高齢化、地域の問題、都市再生に資するような取り組みができる。市民の活動、民間の参画も積極的に取り入れたいと思っている。本日は前橋版 CCRC 構想の全体概要、日赤跡地活用の概要を説明できればと考えている。

3. 自己紹介

4. 設置要綱の制定・座長選出

5. 議事

(1) 前橋版 CCRC 構想策定の背景について

(事務局) 資料3「前橋版 CCRC 構想策定の背景」説明。

(平形委員) 前橋市の強みとして「重粒子線治療等の高度医療を含む医療機関の集積」を挙げているが、群馬大学をはじめとしたこれらの資源は、前橋市だけでなく群馬県全体の強みなのではないか。夜間診療などをバックアップしていただいている、かかりつけ医の存在・体制を前橋市の強みとして記載したほうがよいと思われる。また、効果影響分析について、経済波及効果だけでなく、税収効果などについても算出・記載したほうがよい。

(事務局) 市民税収入に関しては、その他の効果としてまとめているので、ご確認いただきたい。また、今回算出した効果影響分析の結果は、モンテカルロシミュレーションを利用して、楽観的ではない数値を出すよう工夫している。また計算の設定方法として、政策開始後最初の5年間のみの移入を想定して計算している。

(2) 前橋版 CCRC 構想策定にあたっての論点について

(事務局) 資料4「前橋版 CCRC 構想策定にあたっての論点」、参考資料1説明。

(関根兼委員) 観光コンベンション協会では普段ビジター対応をしているが、CCRCでの取り組みについて考える際にも、地元住民とはライフスタイルが異なる、「ビジ

ター」としての移住者の嗜好などを想定したほうがよいと感じている。また、車社会という前橋市のライフスタイルに移住者が適合できるような配慮も必要である。

(宮崎委員) 前橋版 CCRC の利用価格なども提示した上で、移住意向調査を行っているのか。また長野県佐久市も「世界最高健康都市構想」を掲げており、医療資源の充実といった面でも前橋市の競合エリアである。前橋市の強みを活かした差別化戦略が必要だと考えている。温泉街や豊かな自然といったよいイメージ・資源をうまくアピールできればと思う。

(事務局) 利用価格については、アンケートでは提示していない。価格帯については今後、事前調査の中で事業者と協議の上、設定予定である。差別化戦略については、差別化に資する前橋市の強みを具体的に検討できればと考えている。

(小中委員) 前橋市の対人口比の医師数の多さやかかりつけ医体制は、他市町村に対してもアピール材料となっており、夜間急病診療所は前橋市以外からの受診者も多いと聞く。小児科医の対応も充実しているので、子育て世代に対してもアピールできるのではと感じている。また、移住を定住につなげるために、移住後の具体的なライフスタイルや就業を想定できるように検討していただきたい。

(事務局) 現在の前橋市内の就業環境を現実的に考えると、政策初期段階では、父は東京圏への通勤、母子は前橋市での子育てというライフスタイルも想定している。しかし、前橋市人口の増加・定住を目指すとなると、市内での新たな就業機会の創出も必要である。今後、医療・ヘルスケア産業での就業機会などを CCRC の取り組みの中で創出できればと思う。

(倉嶋副市長) これまでの他市町村での CCRC は、CCRC 内部だけでの活動を前提にしていることが多い。前橋市では、CCRC 内部で完結するのではなく、CCRC 居住者が市街地を活用する、活躍の場を市内で見つけるなど、前橋市全体で活動できる取り組みになればよいと考えている。CCRC のエリア内部だけで取り組みを完結させたくない。

(呉氏(松本委員代理)) 群馬県は車社会であり、リタイヤ層の移住ということを見ると、車を持っていない人にとっては非常に不便な町でもある。車を持っていない人でも豊かな生活を送るための移動システムが必要である。前橋市は、自然の豊かさなど、いくつか強みをもっているが、点在したこれらをつなげた魅力づくりができていない。利用できる資源を連携させたインフラや仕組みづくりが必要であ

る。例えば韓国の済州島では、物語性をもった散歩道を 30 コースほどつくり、健康づくりの機能を兼ね備えた観光資源にしている。こういった取り組み以降、外部から人口移入で 50 万人程度の島に 10 万人もの人口増となり、不動産投資や農業人材育成といった取り組みにも派生している。

(事務局) 公共交通ネットワークの再編も、重要な課題であると認識している。歩行中心の生活、その中に市内の既存資源を活かしたストーリーが持てるまちづくりを行っていききたい。

(南委員) 首都圏退職者のスキルを前橋市で活かすような取り組みができるとよい。CCRC の居住者として、技術をもったリタイヤ層に入っただき、前橋市の中小企業での就労・生きがいを見つけていただければと思っている。趣味だけでなく、今まで培ったスキルを人の役に立てたいという思いをもったリタイヤ層も存在する。きれいな空気や自然は、全国の地方、どこにでもある資源だといってもよい。そういった資源を連携・紐付けしている自治体は前橋市だけだというようなアピールが必要である。

(高橋委員) 平成 23 年 12 月の移転決定から検討している日赤跡地の利用計画について、問題となったのは地元の自治会との合意形成である。今回、前橋市から跡地を CCRC に活用するという話があり、日赤としてもどのような形でご支援できるのか検討中である。移転に関しては地元住民からの反対もあったので、地元住民との合意形成を積極的に行っていただきたい。

(関根晃委員) 日赤跡地は比較的不便な場所であると感じている。跡地に大都市圏からの移住者を誘致する場合、どういった点を強みとするか、具体的な検討が必要である。市街地にある CCRC として何がアピールポイントとなるか、考えて発信していく必要がある。

(須田委員) 何度か CCRC 構想の住民説明会が開催されていたが、地域住民の全員が CCRC について十分な見識を持っているわけではない。行政サイドからの情報の伝え方や説明を丁寧に行ったほうがよいと思う。住民不在のまま、こういった場で議論してしまうと、うまくいかなくなるのではと懸念している。

(事務局) 住民の大半は CCRC についてほとんど理解していないという点は把握している。今後も行政から、何を目指しているかわかりやすく伝える努力を継続していききたい。

(小淵委員) CCRC という言葉自体が新しいもので、考え方を浸透させるのは重要だと感じている。また、日赤跡地 CCRC は具体的なスケジュールも想定されているが、前橋版 CCRC として全市に展開するイメージが湧きにくい。既に他エリアでの具体的な展開イメージも持っているのか。

(事務局) 前橋版 CCRC の全市的な展開について、まずは大きな考え方・方針を決め、その後各エリアの展開についてアイデア出しを行う予定である。具体的な計画は、そういったステップの後になるかと思う。

(小淵委員) 東京圏からの移住ということで、地元住民との交流を広げていくこと、雇用、生き生きとした活動の受け皿をどのように整備するのか、ボランティア活動や生涯学習等の多様なプランを用意しなければならないと感じている。

(北川委員) 社会福祉協議会では、地域包括ケアシステムを踏まえた福祉のまちづくりを行っている。住民主体の交流、見守り、支えあいという 3 点の取り組みを展開しており、CCRC と地域包括ケアシステムが連動できるとよい。

(平井委員) 医療や福祉につながるものを日赤跡地には建設してほしいという地元住民の要望もあり、日赤跡地を CCRC の拠点として有効活用していただけるのであればありがたい。また、比較的新しい東館の活用についても検討していただきたい。

(小中委員) 日赤跡地 CCRC に関して、地域住民との連携は重要であると感じている。厚労省が考える地域包括ケアシステム、日常生活圏域で安心して暮らし続けられる医療介護という考え方を踏まえると、日赤移転による周辺住民の医療への不安を CCRC 構築によって緩和できるとよい。

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局) 資料 5 「日赤跡地 CCRC 事業スケジュール」説明。

6. 閉会

(事務局) 次回の協議会は 10 月中旬を予定している。正式に決定次第、前もって委員連絡を行う。

(倉嶋副市長) 本日いただいた意見を踏まえて、再度、方針など次回協議会にて提示する。事業予定者決定の 12 月以降も皆様のご意見をいただける場としてこのよう

な協議会を継続できれば、と考えている。また、公募の予定時期が12月となっているが、市議会との合意形成の状況によっては遅れる可能性がある点もご承知おきいただきたい。

以上